

# 『十字架につけられた救い主・2』

’21/11/07

聖書箇所:マルコの福音書 15章 33-47節(新約 p.101-)

ここ日本では、割と最近まで、末期ガンなどの場合、そういったことを本人に告知しない、というような風潮が当たり前でした。…実は、今でも、末期ガンを患った患者さんには、「そういったことを、本人には受け止められないだろう」ということで、告知しない！できない！というようなことがあるのだそうです。

つい最近、八田西 CC の HP で、2009 年に召されていった森田達治兄の動画を公開させていただきましたが…、森田達治兄の場合、彼は当時まだ 43 歳で、5 人のお子さんがおられました。それまで、大した病気を患うことも無かったのに、いきなり、末期の肺ガンだと告知されて、余命がわずか 1-3 ヶ月と宣告されたにも関わらず、森田兄は、自分の救いを確信し…、「これも、神様の最善なるみこころだ！私は、死の問題を解決できている！」と言って、最後の最後まで、その信仰の輝きを失うことなく、神様のことをあがめながら、天へと召されていきました…。

**命題: イエス様が十字架に磔にされた時、どのようなことがあったでしょう？**

その人の“人間性”とも言えば良いのでしょうか？…その人が持っていた信仰が本物かどうか？つまり、その人が本当に救われているかどうか？というようなことは、ひょっとしたら、その人がどのように様々な問題や試練を受け止めるか？あるいは、どのようにして自分の死を迎えていくか？というようなことも明らかにされていくのではないのでしょうか？

今日は、先週に引き続きまして、あのイエス・キリストが、どのようにして、十字架上で死を迎えられたか？…その時には、どのようなことが起こったか？ということを読んでいきます。そういったことを学んでいくことで、私が願いますのは、今日、このメッセージを聞いてくださった皆さんが、イエス様の正体を知ることができて、イエス様が備えてくださった救いの恵みに預かることができるだけでなく…、そのイエス様への感謝と献身の気持ちを増していってくださって…、ますます、キリストに似た者へと変えられていくことであります。どうぞ、聖書をお持ちでしたら、今回のみことばであるマルコ 15:33 以降をお開きくださいますでしょうか？

## I・イエス様は、**極限**の苦しみを経験された！(21-23 節)

でも、どうか、まずは、先週の礼拝で学んだことを簡単に復習させてください。今日の箇所の直前、21-23 節のみことばから私たちが学んだことは、**当時、イエス様は、“極限”の苦しみを経験された！**ということでありました。

このみことばは、当時のローマ兵たちが、本来、イエス様が背負うべき十字架の(横)木を、無理矢理、クレネ人であったシモンという人物に担がせた！ということをお教えています。…一体なぜ、当時のローマ兵たちは、散々、イエス様のことをいたぶっておきながら…、ここで、イエス様の負担が軽くなるようなことをしたのでしょか？

→まず間違いないのは、この時のイエス様が背中に大ケガを負い…、体力的にも限界であられたからです。しかも、イエス様は、麻酔代わりに『**没薬を混ぜたぶどう酒**』を飲もうとはされず…、本来なら、私たちが負うべき罪の罰を、すべて、その身に負ってくださったのです。…イエス様は、何の罪も犯されていなかったのに、極限の苦しみと言うか、最高の刑罰をお受けになってくださいました。…ということはつまり、私や、また、皆さんが犯された罪が、それほどまでに大きな…、重いものであったから！と言い得るのではないでしょか？

## II・預言の**成就**！(24-32 節)

その次に、24-32 節のみことばから私たちが学んだことは、そんな極限的な状況の中でも、**イエス様は、旧約聖書の預言をことごとく“成就”された！**ということでした。「成就された」と言っても、先週、私たちが確認した預言の成就というものは、イエス様ご自身が何かされたと言うよりも、例えば、イエス様の着物をくじ引きで分けたのはローマ兵たちだったし…、また、頭を振りながら、イエス様のことをのしつたのは、当時の祭司長たちに扇動された群衆たちや、偶然そこを通りがかったような者たちでありました。

そういったことから分かりますことは、やはり、このイエス様こそが、何百年も前から預言されていた「**約束の救い主**」であられる！ということです。…人類史上で、天の神様が遣わされて、私たちの罪をその身に負ってくださったお方は、このイエス・キリストを置いて他にはおられません！…このイエス・キリストだけが、私たちに与えられた唯一の救い主なのです。…そこまでが、先週の礼拝で私たちが学んだことでした。

## III・特別な**出来事**！(33-38 節)

どうぞ、今度は、今日のみことばである 33-38 節をご覧ください。そのみことばは、**当時、イエス様が十字架にかかれていた時、幾つもの特別な“出来事”が起こった！**ということをお教えています。そこには、このように記されてあります。

33 さて、十二時になったとき、全地が暗くなって、午後三時まで続いた。

34 そして、三時に、イエスは大声で、「**エロイ、エロイ、ラマ、サバクタニ**」と叫ばれた。それは訳すと「**わが神、わが神。どうしてわたしをお見捨てになったのですか**」という意味である。

35 そばに立っていた幾人かが、これを聞いて、「**そら、エリヤを呼んでいる**」と言った。

36 すると、ひとり走って行って、海綿に酸いぶどう酒を含ませ、それを葦の棒につけて、イエスに飲ませようとしながら言った。「**エリヤがやって来て、彼を降ろすかどうか、私たちは見ることにしよう**。」

37 それから、イエスは大声をあげて息を引き取られた。

38 神殿の幕が上から下まで真二つに裂けた。

### ● **日食** のような現象が起こった。

どうぞ、今読んだ 33 節に注目してみてください。このみことばを読んでみますと、イエス様が十字架に磔にされた当時、まるで、“日食”のような現象が起こったことが記されてあります。しかし、恐らく、これは日食ではありません。…と言いますのは、天文学の記録を調べてみましても、当時、イエス様が十字架にかけられていた時間に、エルサレムで日食が起こっていたという記録がありませんし…、また、ここ 33 節のみことばが教えている内容も、恐らくは、ただ単に、「**全地が暗くなった…**」ということをお教えているだけで、日食の表現とは違うように思われるからです。

しかし、聖書のみことばは、その全地が暗くなったことが、12 時から3時までということ約3時間も続いたと教えています。空が雨雲などで一時的に暗くなることは有り得ますが、それが、3時間も続く…、しかも、このみことばは、その当時、大雨が降ったとは教えていませんから、かなり、珍しい自然現象だと思われます。…ひょっとしたら、かなり、分厚い雨雲であったのか？あるいは、近くで、火山の爆発などがあって、多量の火山灰でも飛んでいたのでしょうか？

しかし、いずれにしても、この聖書が教えてくれている**真の神様は、どんなことでも御出来になられます**から、まず間違いなく、この日食のような現象とイエス様の十字架とは無関係ではありません。救い主であられるイエス様が十字架に磔にされていた瞬間、天の神様は、全地を暗くされたのです…。

## ●イエス様の 叫び !

さあ、そんな時、イエス様が十字架上で、こんなことを叫ばれます。34 節、『**エロイ、エロイ、ラマ、サバクタニ**』って…。これは訳すと「わが神、わが神。どうしてわたしをお見捨てになったのですか」という意味です。…正直、イエス様が叫ばれた、この言葉に動揺される方も多いと思います。…でも、皆さん、考えてみてください。…実は、イエス様が十字架上で発せられた、お言葉はこれだけではありません。例えば、今日のみことばを見ても、37 節、『**それから、イエスは“大声をあげて”息を引き取られた。**』とありますが、じゃあ、この時、イエス様は何と叫ばれて、最期に息を引き取られたのでしょうか？

申し訳ありませんが、今日は時間もあまり無いので、簡単に紹介だけさせていただきますと、それらは、①『父よ。彼らをお赦しください。彼らは、何をしているのか自分ではわかりません。』、②『まことに、あなたに告げます。あなたはきょう、わたしとともにパラダイスにいます。』、③『女の方。そこに、あなたの息子がいます』&『そこに、あなたの母がいます』、④『**エロイ、エロイ、ラマ、サバクタニ**』、⑤『わたしは渇く』、⑥『完了した』、⑦『父よ。わが霊を御手にゆだねます。』という7つなのです。…つまり、先程見た 37 節、イエス様は何と叫ばれて、息を引き取られたか？という、⑦『**父よ。わが霊を御手にゆだねます。**』と叫んで、亡くなられた？のです。

どうか、皆さん、本当に考えてみてください！…この福音書を記したマルコは、イエス様が十字架上で発せられた、お言葉が7つもあったのに、そのマルコは、このお言葉“だけ”を自分の福音書に記録したのです！…もしも、この言葉が、イエス様のメシヤ性に疑念を抱かせるような言葉なら…、つまり、イエス様が救い主でないというような疑いを引き起こすような言葉なら、マルコは、そんな言葉を…、そんな言葉“だけ”を、果たして、福音書に書き記すでしょうか？…私は、そんなことは、絶対に無い！と思います。

先週学んだように、この時、イエス様が十字架に磔にされていた時の状況は、恐ろしいまでに、ある詩篇のみことばと合致していました。…でしょ！…それは、どこでした？⇒それは詩篇 22 篇でした。そうでしょ！…今日は、もう時間の関係もあって、先週に学んだことを復習しませんが、実は、その詩篇 22 篇は、**こんな言葉が始まっているのです。**『**わが神、わが神。どうして、私をお見捨てになったのですか。遠く離れて私をお救いにならないのですか。私のうめきのことばにも。**』(詩篇 22:1) って…。

⇒皆さん、聞いてくださいましたでしょ？…実は、イエス様が発せられた、『**わが神、わが神。どうして、私をお見捨てになったのですか。**』というお言葉は、詩篇に記されてあった預言の成就であったのです！…と同時に、この叫びは、本来、私や、また、皆さんが叫ぶべき言葉であったのです。

実は、ここで、イエス様が叫ばれた、『**どうしてわたしをお見捨てになったのですか？**』という言葉ですが、その当時の者たちは、それを聞き違えて、イエス様が、エリヤという旧約聖書の預言者のことを呼んでいると勘違いをします。しかし、そうではありません。実は、ここでイエス様がおっしゃられた「見捨てる」というギリシヤ語(ἐγκαταλείπω)の意味は、「見捨てる(という意味の他)、あとに残す、残して去る、放棄する、背を向ける…」という意味の言葉で、この時、天におられる父なる神様が、イエス様に対して、背を向けられた…、交わりを絶たれた！というようなことを意味しています。

果たして、この時、イエス様の身にどんなことが起こったのでしょうか？…どうか、そのことを説明するに当たって、まずは、ヨハネ 17 章のみことばを紹介させていただきます。この時、イエス様は弟子たちを前にして、「告別(お別れ)の説教」を語られた後、長いお祈りをされました。それを、一般的には「大祭司の祈り」と呼んでいます。…その祈りの中で、イエス様は、こんなことをおっしゃっています、『**5 今は、父よ、みそばで、わたしを栄光で輝かせてください。世界が存在する前に、ごいっしょにいて持っていましたあの栄光で輝かせてください。6 わたしは、あなたが世から取り出してわたしに下さった人々に、あなたの御名を明らかにしました。彼らはあなたのものであって、あなたは彼らをわたしに下さいました。彼らはあなたのみことばを守りました。**』(ヨハネ 17:5-6) って…。⇒ここで、イエス様は、驚くべきことをおっしゃっておられます！…何と、イエス様は、はるか昔、父なる神様と共におられて…、神様の栄光で輝いていた！というのです。

それだけではありません…。ヨハネ 10 章、イエス様が、『**わたしは、良い牧者です。良い牧者は羊のためにいのちを捨てます。**』(ヨハネ 10:11)と教えてくださった、あのくんだり、イエス様は、こんなことをおっしゃっておられます。ヨハネ 10:29-31、『**29 わたしに彼らをお与えになった父は、すべてにまさって偉大です。だれもわたしの父の御手から彼らを奪い去ることはできません。30 わたしと父とは一つです。**』31 ユダヤ人たちは、**イエスを石打ちにしようとして、また石を取り上げた。**』とあります。

⇒何と、この時、ユダヤ人たちは、イエス様のことを石打ちの刑にして殺してしまおうとしたのです。…その理由を皆さんは分かってくださいませよ？…それは、30 節にあるように、イエス様が、「わたしと父…、つまり、天の父なる神様とが一つである…」ご自分を神と等しいとされたからです！

どうか、皆さん、イメージしてみてください。…天の父なる神様とは、どんな者たちよりも、はるかに聖く…、また、義なる御方でしょ！…果たして、そのような御方が、罪を背負われたイエス様と親しく…、一つで居続けることができるでしょうか！…答えは明らかです。…イエス様は、あの十字架上で、私たちの罪を背負ってくださったのです！…そんな罪あるイエス様と父なる神様とが、親しい…、三位一体の関係で居続けることができるでしょうか！

だから、この時、天の父なる神様は、イエス様に背を向けられたのです。間違いなく、それは、イエス様にとって初めての経験だったはずですよ！…いえ！イエス様だけではありません！あのアダムとエバ以降、すべての人間たちは皆、その罪のゆえに、聖く義なる神様から背を向けられてしまっているのです！だから、イエス様が叫ばれた、『**わが神、わが神。どうしてわたしをお見捨てになったのですか？**』という、あの叫びは、本来ならば、私たち罪人が神様へ叫ぶべき叫びであったし、そういった意味でも、イエス様は、私たちの身代わりとなってくださったのです！

## ●神殿の幕が、上から 裂けた！

どうぞ、37 節をご覧ください。この時、イエス様は朝の9時から午後3時頃まで、おおよそ、6時間ほど、十字架上で苦しみました。その後、聖書のみことばは何と教えてくれています？…37 節には、**こうあります。**『**それから、イエスは大声をあげて息を引き取られた。**』って…。皆さん、分かってくださいませ？…普通、十字架に磔にされた者たちは、十字架の上で、体力を消耗していつ、最後には、息ができなくなって、窒息死をするのだそうです。

しかし、イエス様の場合は、少し？…いえ！かなり違います！…このみことばは、イエス様が、最後に「息を引き取られた…」ということを教えてくれています。その直前に、イエス様は大声を出されるほどの“余力”があられたのです。…私も知っていますのは、多くの人が亡くなる時は、結構前から意識を失って、自然に、血圧が下がったり、呼吸数が減ったりして、やがて、亡くなっていかれます。…それは、まるで、その本人の意志と言うより、神様が、その人のいのちを奪われるような感じかも知れません…。

しかし、イエス様の場合、今日のみことばはこう教えてくれています、『**(イエス様は、ご自分で)息を引き取られた**』って…。良いですか？皆さん！…イエス様は力尽きて、イエス様自身の意志に反して、亡くなっていかれたわけではありません！…イエス様は、ご自分の意志で…、あるいは、ご自分のタイミングで、息を引き取られたのです！

だから、今回のみことばの 44 節が教える通り、総督ピラトも、そのことを聞いて、驚くわけですよ。…実は、この当時の十字架刑の場合、その受刑者は、十字架の上で、数日間も苦しみ続ける…、なんていうこともあったそうです。…しかし、実は、そういったことも含めて…、すべては、神様の御計画通りでありました。

実は、今日のみことばの平行記事であるヨハネ伝 19 章には、イエス様の死が少々早かったことについて、こんな風に記されています。ヨハネ 19:31-36、『**31 その日は備え日であったため、ユダヤ人たちは**

安息日に(その安息日は大いなる日であったので)、死体を十字架の上に残しておかないように、すねを折ってそれを取りのける処置をピラトに願った。32 それで、兵士たちが来て、イエスといっしょに十字架につけられた第一の者と、もうひとりの者とのすねを折った。33 しかし、イエスのところに来ると、イエスがすでに死んでおられるのを認めたので、すねを折らなかつた。34 しかし、兵士のうちのひとりがイエスのわき腹を槍で突き刺した。すると、ただちに血と水が出て来た。35 それを目撃した者があかしをしているのである。そのあかしは真実である。その人が、あなたがたにも信じさせるために、真実を話すということをよく知っているのである。36 この事が起こったのは、「彼の骨は一つも砕かれない」という聖書のことが成就するためであった。』

⇒分かってくださいますか？…実は、イエス様の死は、周りの者たちが予想していたよりも少々早かったらしいのですが、でも、実は、それさえも、聖書に預言されてあった！というのです。実は、旧約聖書の出エジプト記には、過越のいけにえ…、つまり、過越の時にほふられる子羊に関して、こんな風に教えられています。出エジプト記 12:43-47、『43 【主】はモーセとアロンに仰せられた。「過越のいけにえに関するおきては次のとおりである。外国人はだれもこれを食べてはならない。44 しかし、だれでも金(かね)で買われた奴隷は、あなたが割礼を施せば、これを食べることができる。45 居留者(きょうりゆうしゃ)と雇人は、これを食べてはならない。46 これは一つの家の中で食べなければならない。あなたはその肉を家の外に持ち出してはならない。またその骨を折ってはならない。47 イスラエルの全会衆はこれを行わなければならない。』

⇒皆さんもご存知のように、あの 10 番目の災い…、過ぎ越しの際に犠牲にされた子羊というのは、私たちの救い主となってくださるイエス様のことを指し示していました。…その子羊の骨が折られてはいけなかつたのと同様に、神の小羊であられたイエス様の骨も折られてはいけなかつたのです！

さて…、そのイエス様が、大声を叫んで、自ら、そのいのちを引き取られた時、何と、『神殿の幕が上から下まで真つ二つに裂けた。』ということ、今日のみことばの 38 節は教えます。ここで言われている『神殿の幕』と言いますのは、当時の神殿の1番奥にあった、「至聖所と聖所との間にあった幕のこと」です。神殿の1番奥には、1年の内、たった1度だけ…、贖罪の日と呼ばれる日に、大祭司しか入ることができませんでした。…しかも、その時、全イスラエルは、断食をして、一切の仕事を止めて、完全な安息に入らなければなりません。

また、その大祭司は身を清め、聖なる装束をつけて、生きている1頭のヤギを携えて聖所に入っていくわけですが…、その時、伝承によると、大祭司は腰か足にロープを付けて、至聖所の中に入っていくのだそうです。…と言いますのは、万が一、大祭司が何か罪を犯したり、あるいは、何かの粗相をして神に打たれて亡くなってしまった場合、誰も、至聖所の中に入っていくことができないから、そのロープを引っ張って、大祭司(の遺体?)を至聖所から出してあげよう、というわけだそうです。

しかし、そんな至聖所にあった幕が、真つ二つに裂けた！しかも、それが、『上から下まで』とみことばが教えてくれているように、それが神様の御業であることは明らかです。…神様は、イエス様の死をもって、聖い神様と私たちとの間にあった「隔たり」というものを無くしてくださったのです！

#### IV・様々な人たちの 反応 ! (39-47 節)

さて、今日も申し訳ありませんが、最後は駆け足で、4つ目のポイントを見ていきましょう。最後、39-47 節のみことばは、当時、イエス様の周りに居た者たちの“反応”について教えてくれています。そこには、このように記されています。

39 イエスの正面に立っていた百人隊長は、イエスがこのように息を引き取られたのを見て、「この方はま

ことに神の子であった」と言った。

40 また、遠くのほうから見ていた女たちもいた。その中にマグダラのマリヤと、小ヤコブとヨセの母マリヤと、またサロメもいた。

41 イエスがガリラヤにおられたとき、いつもつき従って仕えていた女たちである。このほかにも、イエスといっしょにエルサレムに上って来た女たちがたくさんいた。

42 すっかり夕方になった。その日は備えの日、すなわち安息日の前日であったので、

43 アリマタヤのヨセフは、思い切ってピラトのところに行き、イエスのからだの下げ渡しを願った。ヨセフは有力な議員であり、みずからも神の国を待ち望んでいた人であった。

44 ピラトは、イエスがもう死んだのかと驚いて、百人隊長を呼び出し、イエスがすでに死んでしまったかどうかを問いただした。

45 そして、百人隊長からそうと確かめてから、イエスのからだをヨセフに与えた。

46 そこで、ヨセフは亜麻布を買い、イエスを取り降ろしてその亜麻布に包み、岩を掘って造った墓に納めた。墓の入口には石をころがしかけておいた。

47 マグダラのマリヤとヨセの母マリヤとは、イエスの納められる所をよく見ていた。

#### ●百人隊長の感想

さて、ここ 39 節のみことばが教えてくれている通り、イエス様の真正面において、すべてのことを見ていた百人隊長は、こんなことを口走ります、『この方はまことに神の子であった』って…。この時、百人隊長だけでなく、そこには、大勢のローマ兵や群衆たちがおりました。そこで、起こった事実は1つだけです。しかし、それらを見た反応は様々でした。

先程見たように、当時の群衆たちは、イエス様の叫びを聞いて、「あれはエリヤを呼んでいる！私たちが、エリヤが来て、あのイエスのことを降ろすかどうか見ていよう…」と勘違いして、全く見当外れのことを期待してしまっています。…しかし、別のある者、例えば、百人隊長などは、その群衆たちが見たのと、ほとんど同じ光景を目にしていながら、「この方は、まことに神の子であった」という風に思うわけです。…正直に言って、この百人隊長が救われたかどうか分かりません。…しかし、この『神の子』というのは、マルコの福音書の1番初めの言葉であり、そのことを伝え…、そのことを証しするために、マルコは、この福音書を書き記したわけで…、そういうことを、この百人隊長は感じ取ったと言い得るのです。

今回のみことばには書き記されていませんが、ルカ伝 23 章を見てみると、イエス様と一緒につけられた片方の強盗も、あの十字架上で、イエス様のことを信じて…、彼は間違いなく救われました！…と言いますのも、イエス様は、その強盗に向かって、『まことに、あなたに告げます。あなたはきょう、わたしとともにパラダイスにいます。』(ルカ 23:43)とおっしゃられたからです。…このように、どんな状況にあっても、ちゃんとした聞く耳をもって聞き、見るべき目をもって見る事ができれば、人は救われるのです！

#### ●何人かの 女性 たち

さて、今度は、何人かの“女性”たちであります。今回のみことばは、いつも、イエス様の周りには、大勢の女性たちが居たということを教えてくれています。その中でも特に名前が挙がっているのは、①マグダラのマリヤと、②小ヤコブとヨセの母マリヤ、そして、③サロメであります。今日はもう時間の関係もあって、詳しい説明はできません。しかし、簡単に説明をさせていただきますと、①マグダラのマリヤはルカ 8 章に出てきて、イエス様によって、悪霊を追い出してもらって以降、イエス様に従ってきた女性です。②小ヤコブとヨセの母マリヤとは、この名前の通りです。③サロメというのは、ヤコブとヨハネの母親になります。

このように、聖書を見ても間違いなく伝わってくるのは、この時、イエス様から直弟子として選ばれた、あの 12 人は全員、イエス様を裏切るか…、見捨てていったにも関わらず、何人かの女性たちは、最後

までイエス様に従っていたということです。現代でも、ほとんどの教会では男性よりも女性の方が多い傾向にあります。また、多くの教会では、男性よりもむしろ、女性たちの働きによって、教会の多くの働きが支えられているように思われます。…本当に、私たちは、こういったような献身的な女性たちの働きに感謝すべきであります…。

#### ●アリマタヤのヨセフ！

さて、最後に見ていきたいのは、アリマタヤの“ヨセフ”という人物です。彼は、ヨハネ伝を見ると、イエス様の弟子であったようですが、ユダヤ人たちを恐れて、そのことを隠していたようです。言わば、「隠れクリスチャン」です。この人物について、ルカ 23:50-53 には、このように記されています。『50 さてここに、ヨセフという、議員のひとりで、りっぱな、正しい人がいた。51 この人は議員たちの計画や行動には同意しなかった。彼は、アリマタヤというユダヤ人の町の人で、神の国を待ち望んでいた。52 この人が、ピラトのところに行って、イエスのからだの下げ渡しを願った。53 それから、イエスを取り降ろして、亜麻布で包み、そして、まだだれをも葬ったことのない、岩に掘られた墓にイエスを納めた。』

⇒実は、彼のことも、旧約聖書に預言がされておりました。実は、救い主に関して預言されてある、イザヤ 53 章には、こんな言葉が記されています。イザヤ 53:9、『彼の墓は悪者どもとともに設けられ、彼は富む者とともに葬られた。彼は暴虐を行わず、その口に欺きはなかったが。』って…。ご存知のように、イエス様は、2人の強盗どもと一緒に十字架につけられ…、また、イエス様の墓は、裕福であったアリマタヤのヨセフによって用意されました。…ま、このように、救い主に関する預言が、イエス様によって、ことごとく成就していきました…。何度も言いますが、こんなお方が、イエス・キリスト以外におられるでしょうか！

#### <励ましの言葉>

もう、私たち…、かなり、長い期間に渡って、あのイエス様が、ここに至るまで…、例えば、弟子たちに見捨てられ…、祭司長たちからは強引に有罪とされ、それにまた、当時の群衆たちから、「十字架につけろ！」と呼ばれてしまいました。その後、イエス様は、死ぬほどのムチを打たれ、その後、自分が磔にされる十字架の木を背負わされて、ヴィア・ドロローサ…、「悲しみの道」を歩かされます。言わば、見せしめであります。

しかし、そんなイエス様が恐らく1番つらかったのは、弟子たちの裏切りや肉体的な苦痛ではなく…、父なる神様との親密な関係が(一時的に)絶たれたこと…、あるいは、父なる神様から背を向けられた！ということだったはずですが…しかし、そういったこともすべてご存知の上で、イエス様は、私たちの身代わりとなって、あの十字架にかかって、死んでいってくださったのです！

何度も言うように、それしか！私や、あなたのことを救う道が無かったからです！…それとも、あなたは、自分自身の清い行ないによって、神様から義とされて、救われると思われるでしょうか？…いいえ！そんな良い人間は、どこにもおりません。「義人はひとりも居ない」のです！私にも…、あなたにも、たくさんの罪があるはずですが！

この世の中には、たくさんの功績を残した偉人たちがおります。また、素晴らしい教を説いた教祖たち…、あるいは、立派な宗教家たちも数多くおられます。…しかし、この世の中で、皆さんのことを救うために、そのいのちさえ捨ててくださったお方は、このイエス・キリストだけです！だから、このイエス・キリスト以外に救いは無いのです！

どうか、皆さん…。この救いについて考えたり、決めたりすることを先延ばしにしないで、今日、今、この瞬間に、あなたの罪を悔い改めて、イエス・キリストを信じ従っていく決心をしてください！それ以外に、イエス様が払ってくださった大きな犠牲に報いる術が無いからです。

初代教会の時代、使徒ペテロは、大胆に、イエス様の十字架と復活のメッセージを語りました。使徒 2 章には、こうあります。『36 ですから、イスラエルのすべての人々は、このことをはっきりと知らなければなりません。すなわち、神が、今や主ともキリストともされたこのイエスを、あなたがたは十字架につけたのです。」37 人々はこれを聞いて心を刺され、ペテロとほかの使徒たちに、「兄弟たち。私たちはどうしたらよいでしょうか」と言った。38 そこでペテロは彼らに答えた。「悔い改めなさい。そして、それぞれ罪を赦していただくために、イエス・キリストの名によってバプテスマを受けなさい。そうすれば、賜物として聖霊を受けるでしょう。』(使徒 2:36-38)とあります。

今日は、詳しい説明をする時間がなくて申し訳ないのですが、ここで言われていることは、「罪を赦される“ために”バプテスマを受けなさい！」ということではありません。イエス様を信じて、罪を赦された者は、その証しとして、その信仰を公に…、信仰を明らかにしたくなって、バプテスマを受けるのです！…そのように、本物の信仰は、あなたを変えてくれます！神に似た者…、神を1番に愛し、神に従う者へと変えていってくださいます！…あの、アリマタヤのヨセフがそうであったように…。また、今日のメッセージの冒頭で紹介した、森田達治兄がそうであったように…。

どうか、今すぐ、イエス様を信じて、変えられてください！死に勝利されたイエス様を信じて、あなたも、死に勝利する者となってください！…そして、どうか、この神様のみこころを求め、そのみこころに従う者…、イエス様に感謝し…、その感謝を表わす者となってください！…心から皆さんにお勧めいたします。最後に、お祈りをもって、今日のメッセージを終わらせていただきます。